

令和 5 年度 駒沢中学校学校関係者評価委員会 報告書

感染症対策が緩和されるにつれ、学校の教育活動も平常に戻りつつある中で、学校行事や学校公開等で保護者や地域住民との接点も深まりつつあります。

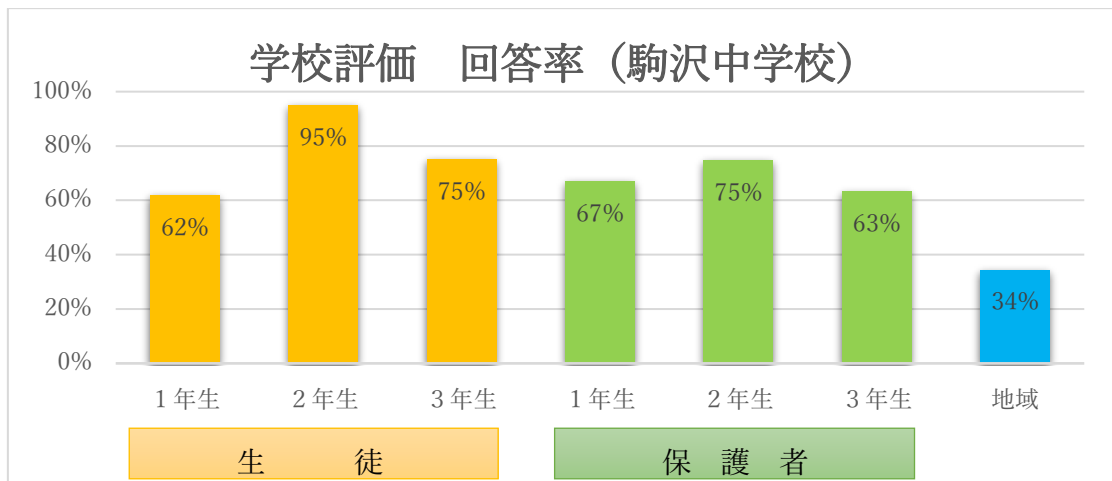
このような中で、今年度も引き続き、生徒・保護者・地域住民に向けての学校関係者評価アンケートが実施されました。

駒沢中学校は、校訓として「向学 誠実 調和」を掲げ、教育目標「自ら学び考え行動する人間性豊かな生徒の育成」の実現のために、「安全・安心・安定した学校」の構築を目指して学校運営に邁進していることに対し敬意を表した上で、令和 5 年度駒沢中学校学校関係者評価の結果及び提言を次の通り報告いたします。

【令和 5 年度学校関係者評価】

◎ アンケート実施期間：令和 5 年 11 月 13 日～11 月 27 日

◎ 回答率



1. 学習指導について

（１）生徒による評価について

「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」という質問への肯定的評価（とても思う、思う）が 93.2%（昨年度 92.6%、以下括弧内は昨年度の数値）、「先生は、黒板の書き方やプリント

などを工夫している」の肯定的評価は 89.6% (89.2%)、「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」の肯定的評価は 95.2% (92.8%)、「先生は、映像やタブレットなどの ICT を利用し、分かりやすい授業をしている」の肯定的評価は 88.8% (88.0%)、「先生は、提出物やテストなどを分かりやすく評価している」の肯定的評価は 76.9% (75.4%) となった。また、独自項目にある「1 時間の授業を大切にし、学習に積極的に取り組んでいる」の肯定的評価は 78.9% であった。このように学習指導に関しては全体的に高めの評価であり、学校としての取組によるものか、全項目で肯定的評価の割合が昨年度を上回った。

さらに、今回の学年ごとの回答率をみると 1 学年が 62%、2 学年 95%、3 学年 75% と 1 学年の回答率が特に少なかった。1 学年の回答は比較的に肯定的評価が高くなる傾向にあるため、本来であれば肯定的評価の割合は全体的にもう少し高くなったのではないかと推察される。

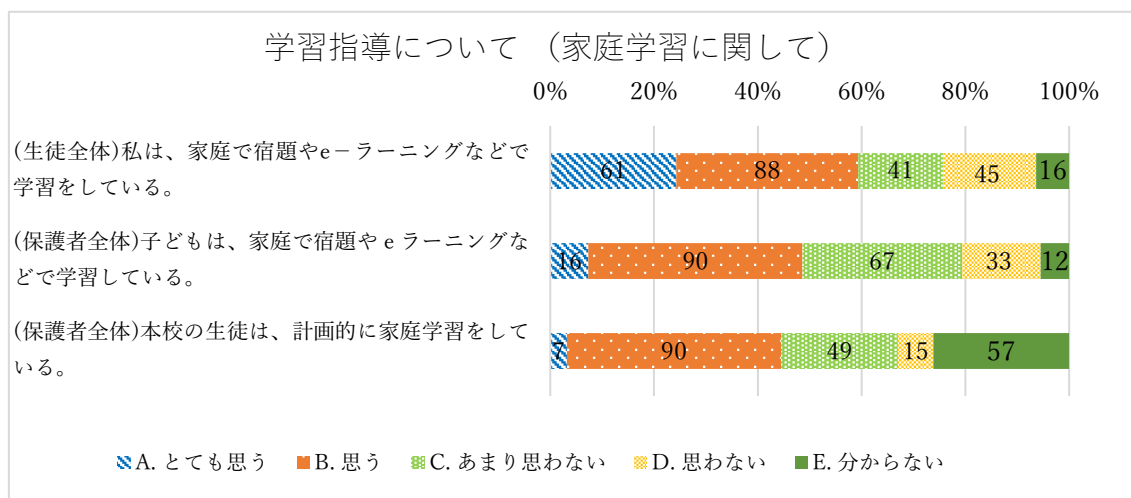
一方で、全般についての項目内にある「私は、家庭で宿題や e-ラーニングなどで学習をしている」という質問に対しての肯定的評価は 57.8% で、否定的評価（思わない、あまり思わない）は 35.1% と、学習に関する質問の中にあっても、家庭学習に関しては低い結果となった。

これらのことから、学校における学習指導において、生徒からの評価は全体的に肯定的であったが、家庭学習については生徒の自主性が一層促進されるよう内容等、さらなる取組の改善が必要と思われる。

（２）保護者による評価について

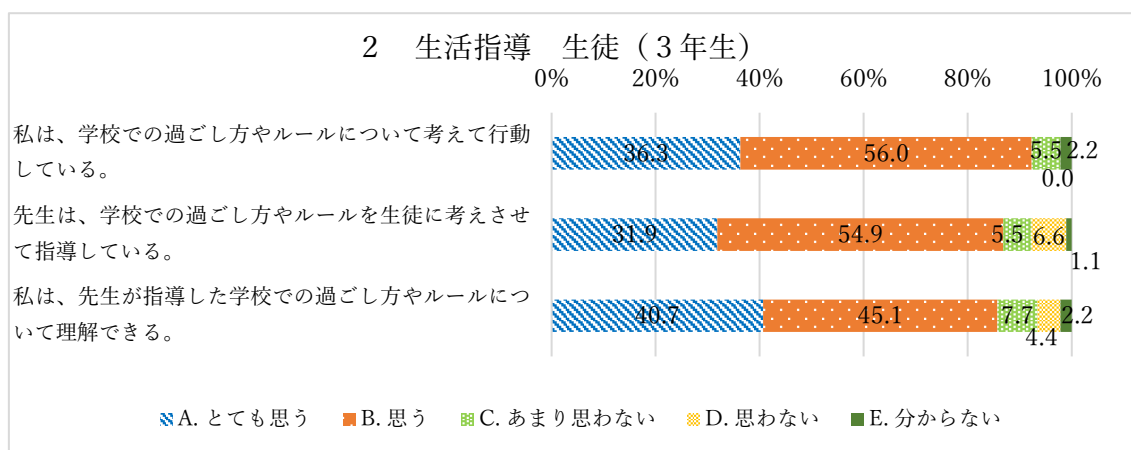
「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業をしている」の肯定的評価は 74.3% (69.4%)、「本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」の肯定的評価は 59.1% (48.6%)、「本校は、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」の肯定的評価は 76.6% (75.7%)、「本校は、映像やタブレットなどの ICT を利用し、分かりやすい授業をしている」の肯定的評価は 61.9% (57.8%) と全体的に昨年度よりも上がっていた。ただし、こちらも生徒による評価と同様に、全般についての「子どもは、家庭で宿題や e-ラーニングなどで学習をしている」という質問に対しての肯定的評価は 48.6% で、否定的評価は 45.8% と、生徒の評価を下回る結果となった。さらに独自項目にある「本校の生徒は、計画的に家庭学習をしている」に対する肯定的評価は 44.5% (47.4%)、否定的評価は 29.4% (19.1%)、わからない 26.1% (33.5%) と家庭学習に関する複数の質問において低めの評価となった。

生徒と保護者の回答から、学校における学習指導については昨年度を上回る肯定的評価からもプラスの変化を感じられているが、家庭学習に対しては何らかの取組が求められているのではないかと考える。



2. 生活指導について

生徒アンケート「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」は肯定的評価が 88.0%（86.4%）と、昨年度同様に高い評価となった。特に 3 年生の肯定的評価は 92.3%となり、中でも一番高い評価となった。このことから 3 年生が責任ある行動を心がけて学校生活を送っている様子を感ずることができる。また、「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している」は肯定的評価が 85.7%、「私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる」は肯定的評価が 84.1%となり、これら 3 項目の肯定的評価が高いことから、先生は生徒とのよりよい信頼関係を今後も継続していただきたい。



保護者アンケート「本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせて指導をしている」は肯定的評価が 64.3%（69.3%）と、昨年度より 5.0 ポイント下がった。特に 1 年生保護者の肯定的評価が 58.3%、「わからない」23.9%と評価が低い。2 年生保護者の肯定的評価は 81.8%、3 年生保護者の肯定的評

価は 81.1%であることを考えると、1 年生保護者が、学校行事・公開授業などに積極的に来校し、学校での先生・生徒の様子を見ることで評価が変わることを期待したい。先生は、昨年度に引き続き肯定的評価が下がったことを真摯に受け止め、今まで以上に保護者との信頼関係を築くことが望ましい。

また、駒沢中学校独自項目である地域アンケート「本校の生徒は、地域において落ち着いて生活している」の肯定的評価 95.7% (85.0%) は、昨年度より 10.7 ポイント上がり、高い評価である。このことから、生徒の地域での生活が落ち着いている様子が伺える。登下校時も同様だと思われる。

さらに、独自項目「本校の生徒が、地域で活躍する姿を見ることがある」の肯定的評価は 82.6% と高い評価であった。地域イベントに中学生の参加協力で「とても助かっている」と地域からの声を聞くことも多いので、これからも継続していただきたい。

多くの地域の方々に、学校の様子などの情報発信をして、よりよい信頼関係の継続をお願いしたい。

3. キャリア教育について

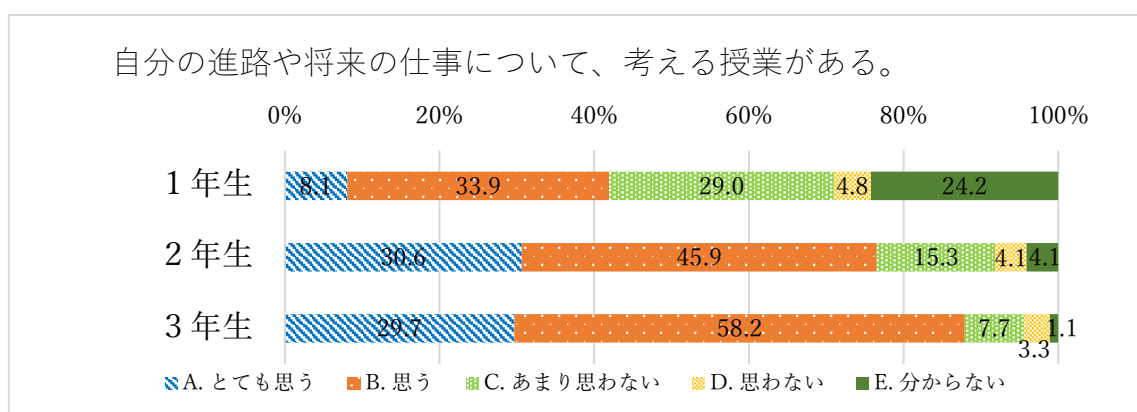
生徒アンケート「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している」では、2 年生の肯定的評価は 58.1% (46.6%) と昨年度より高くなった。一方で 1 年生の否定的評価は 30.6% (16.3%) と「わからない」が 16.1% (6.5%) と昨年度より大幅に増加した。1 年生の約半数の生徒が自分で書いた目標について具体的に考えて行動できていない状況と思われる。

保護者アンケート「本校は、キャリア・パスポートの目標について子どもに考えさせる指導をしている」に対する肯定的評価は 1 年生保護者 43.3% (67.4%)、2 年生保護者 80.5% (77.5%)、3 年生保護者 75.7% (82.6%) となっており、1 年生保護者の肯定的評価が大幅に減少した。今後さらに学校からの具体的な指導内容の改善が望まれ、それに伴い保護者の理解が深まると良いと思われる。

続いて、生徒アンケート「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある」について、2 年生の肯定的評価は 76.5% (70.3%) と高くなった。これは職業講話および職場体験学習を通じて、生徒が社会とのつながりや職業意識をより身近に感じ、考えることができたからと思われる。一方で 1 年生の肯定的評価は 42.0% (64.2%) と低くなった。また、保護者アンケート「本校は子どもの進路や将来のことについて考える授業がある」は、3 年生保護者の肯定的評価が 81.1% (85.3%) と高い数値を維持した一方で、1 年生保護者の「わからない」が 35.8% (32.7%) と突出した結果となった。これは生徒・保護者ともにアンケート集計時点でキャリア教育の授業が未実施なことも原因と推察される。

今後に向け、1年生時点からキャリア教育を意識できるような働きかけを強化していくことが必要だと思われる。

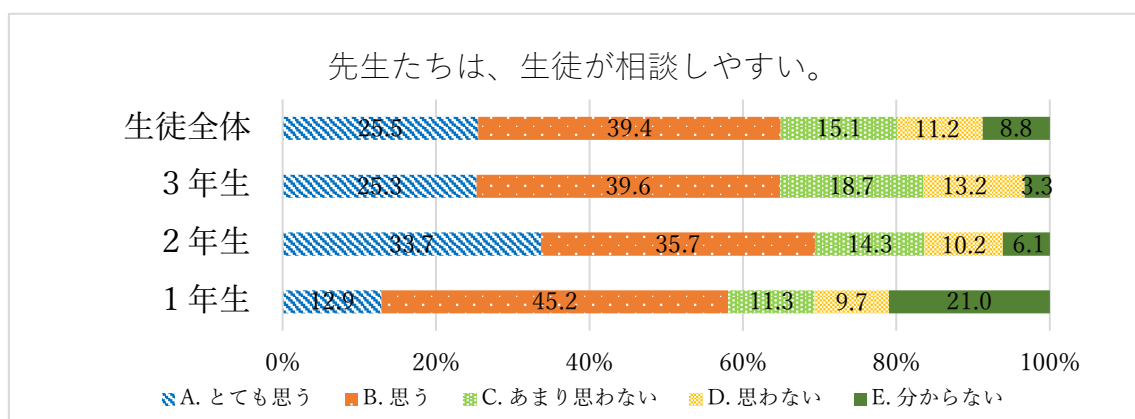
生徒アンケート「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」では、3年生の肯定的評価は90.1%（78.8%）と高くなった。これは学校から、生徒が望む形での情報提供や支援が行われた結果と思われる。一方で保護者アンケート「本校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」では、肯定的評価は3年生保護者79.7%（82.6%）、2年生保護者71.4%（79.6%）、1年生保護者34.3%（57.1%）と全学年で昨年度より低下した。これは年々多様化していく進路選択に応じて、従来通りの取組では足りず、より早期かつ細やかな情報提供が求められていると思われる。



4. 教職員について

生徒アンケート「先生たちは、生徒をていねいに指導している」は、肯定的評価94.0%（90.5%）と3.5ポイント増加、否定的評価が4.0%（4.9%）と0.9ポイント減少、「わからない」が2.0%（4.6%）と2.6ポイント減少した。学年別にみると、1年生の肯定的評価は93.6%（96.8%）と3.2ポイント減少しているものの、2年生は、93.9%（91.1%）と2.8ポイント、3年生においては94.5%（85.7%）と8.8ポイント増加した。

一方、「先生たちは、生徒が相談しやすい」は、肯定的評価64.9%（66.4%）と1.5ポイント減少し、否定的評価は26.3%（26.2%）と横ばい、「わからない」は8.8%（7.4%）と1.4ポイント増加した。学年別にみると差が激しく、2年生の肯定的評価は69.4%（51.4%）と18.0ポイント増加しているのに対し、1年生58.1%（77.2%）と19.1ポイント、3年生64.9%（70.5%）と5.6ポイント減少した。先生の指導は丁寧だと高評価ではあるが、相談のしやすさは、学年によって違いが大きい。



保護者アンケートでは「本校は丁寧に指導している」の肯定的評価は 82.1% (75.7%)と 6.4 ポイント増加、否定的評価は 8.2% (11.0%)と 2.8 ポイント減少、「わからない」は 9.6% (13.3%)と 3.7 ポイント減少した。

また、「本校は子どもや保護者が相談しやすい」は、肯定的評価 78.0% (68.2%)と 9.8 ポイント増加、否定的評価 13.3% (20.8%)と 7.5 ポイント減少、「わからない」 8.7% (11.0%)と 2.3 ポイント減少した。このことから保護者は、教職員の指導・相談に対して、概ね満足していると見てとれる。

独自項目「本校の教職員の対応におけるマナーや態度などはしっかりしている」では、肯定的評価 90.3% (85.0%)と、5.3 ポイント増加、否定的評価 4.6% (9.3%)と 4.7 ポイント減少、「わからない」 5.0% (5.8%)と 0.8 ポイント減少した。公開授業など、学校行事が今までよりも増えている分、教職員の態度が保護者から高評価を得ていることは、良いと思う。

5. 総合評価

昨年度より保護者向けアンケートが web 上に変更されたため、昨年度の保護者アンケート回答率が 46.5%と激減したことに伴い、当評価委員会が改善努力課題のひとつとして設定したことにより、学校から保護者への PR 活動等の成果から、今年度回答率が 68.0%まで回復したことは喜ばしいことである。今後ともより一層の啓発活動に努めていただき、回答率の向上に期待したい。

今年度の生徒アンケート項目は、「学習指導」5項目、「生活指導」3項目、「学校行事」3項目、「キャリア教育」3項目、「先生について」2項目、「全般について」6項目、「部活動」2項目、「駒中独自項目」10項目、計34項目の質問構成で行われた。

「学習指導」、「生活指導」、「キャリア教育」、「先生について」は前頁の評価結果を参照していただき、ここでは残りの4項目について分析する。

「学校行事」に関する項目の肯定的評価の平均値 88.8%や、「部活動」に関する項目の肯定的評価の平均値 74.7%は、「学校生活は楽しい」87.6%、「学校生

活は達成感がある」74.5%の肯定的評価とともに大変喜ばしい数値である。また、「駒中 principle を心がけて行動している」関連の4項目全てにおいて肯定的評価が80%を超えていることは、駒中 principle のコンセプトが生徒に浸透定着していることがうかがえる。しかしながら一方で、「学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある」の肯定的評価が25.1%、否定的評価が57.3%となっており、「学び舎」関連の施策の練り直しが今後の課題のひとつであると思われる。

次に、保護者アンケートについては、「学習指導」4項目、「生活指導」2項目、「学校行事」3項目、「キャリア教育」3項目、「教職員」2項目、「全般」6項目、「部活動」2項目、「情報提供」4項目、「学校運営」3項目、「学校と家庭の連携」3項目、「地域との連携」3項目、「学校の安全」3項目、「駒中独自項目」9項目、計47項目の質問構成である。

生徒評価と同様に「学校行事」関連項目では平均値88.9%、「部活動」関連項目では平均値73.9%と肯定的に高い評価をしている。また、「学校生活は、子どもにとって楽しい」82.6%、「本校の学校生活は、子どもにとって達成感がある」77.9%の肯定的評価は、上記の生徒自身の同項目の高い評価とともに、生徒の学校生活の充実度の表れとみることができる。その上で、「駒中独自項目」の中の「本校の教職員の対応におけるマナーや態度はしっかりしている」の肯定的評価の90.1%は、本校の教職員の真摯で誠実な人間性を示していると評価したい。しかし残念なことに「私は、学校公開にすすんで参加している」の肯定的評価が57.4%という数字は少々さびしい感が否めない。強制はできないが、保護者の側の努力目標としてこの数字が少しでも上昇することを次年度に期待する次第である。

最後に、地域住民の評価は、感染対策の後遺症もあつてか、「わからない」という回答も少なからずあったが、「安心・安全な学校づくり」や「生徒の落ち着いた生活」の項目に対する肯定的評価がいずれも90%を超えていた。今後とも地域への情報発信の一層の強化を望むものである。

6. 更なる改善の努力課題

- (1) 宿題やe-ラーニングを活用した家庭学習の指導の充実
- (2) キャリア・パスポート等を活用した、早期からの（1年生への）指導の充実
- (3) 「学び舎」を活用した近隣小学校・幼稚園・保育園との連携の強化